

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第326回

佐々木朗希

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年10月5日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

子どもの頃、野球選手に
なれるとも
思っていませんでした。

佐々木 朗希は、岩手県陸前高田市出身のプロ野球選手。右投右打。千葉ロッテマリーンズ所属。愛称は令和の怪物。日本プロ野球記録となる13者連続奪三振、プロ野球タイ記録の1試合19奪三振の記録保持者。

Column

現在の日本プロ野球界最高の投手と言っても過言ではない活躍で野球ファンを魅了している佐々木朗希投手ですが、子どもの頃はまだ自身の才能に気づいていなかったということでしょうか。自身はそう思っていたとしても『令和の怪物』と称されるほどの才能を多くの関係者が見逃すはずはありません。きっと当時からその才能を高く評価されていたのだらうと思います。

みなさんの夢や目標は、何歳の頃から持っているものですか？それはこれまでの人生の中で抱いたいくつ目のものですか？以前持っていた夢や目標は達成できましたか？今の夢や目標を持つようになったきっかけはどんなことですか？私が初めて夢を持ったのは幼稚園児の頃でした。幼稚園で夢についてお話をされる事があると思うので、みなさんの中にも初めて夢を抱いたタイミングが私と同じという人がいるかもしれませんね。当時を振り返ると抱いた夢や目標に今のような“こだわり”などはなく、その夢が叶うとも、叶えるために必要なことがあるということ自体も認識していなかったように思います。そういう意味では夢や目標に対するこだわりを持つようになるのは今のみなさんと同じ中高生くらいなのかもしれません。夢が叶うと思っていなかった佐々木朗希投手が夢を叶えることができたのは、当時『今のままでは』夢が叶わないと感じたからであり、達成するためにこだわり、ありとあらゆる努力をするきっかけになったからではないかと思います。そして、それだけ叶えたい夢だったからこそ叶えた今も努力を続け、現在の活躍に結びついているのだと思いました。

夢を持った人のパワーは素晴らしいものだと思います。私もスポーツの指導の中で夢に向かってまっすぐ走り続ける選手たちの姿に圧倒されることがあります。夢のスケールやジャンルなんて関係ありません。本気で夢に向かうからこそ『夢中』になれるのではないのでしょうか。正智深谷高校が夢を叶えるための舞台であり、準備の場であり、夢のような時間だったと振り返る場にできるのはみなさん次第です。応援しています！